

# 牧草と園藝



# アローリーフクローバの活用

- 短期間（裏作）で高収があがると好評です。  
圃場条件に恵まれ、適期播種を行うと、生草で7t、風乾物では1t前後の高収が得られる。
- 暖地型牧草地への中播き追播で早春の草量が確保され牧養力増強に役立ちます。  
バヒアグラス（ローズグラス）等の暖地型牧草は翌春の高温時まで再生が休止する。従って草種間競合も少なくアローリーフクローバの高収性が発揮される。
- 秋播きチモシーとの混播では混播適応力も高く一回目の利用時期を早め、反収増加に役立ちます。  
チモシーはアカクローバとの混播が標準的ですが、更にアローリーフクローバを1～0.5kg加えることによって、刈取時期が早まり、年間収量のアップにもつながる。



開花期を迎えたアローリーフクローバ

## アローリーフクローバの特性

- 原産地はイタリアで、アメリカにおいて育成された新しい一年生（越年生）マメ科牧草です。
- 低温時の伸長性が良好で暖地での裏作栽培に適しています。
- アカクローバと草姿は類似し、直立型で、採草利用にも適しています。
- 栄養生産性が高く、粗灰分（ミネラル）の含有率が高い。

## アローリーフクローバ栽培上の注意点

- 畑地裏作栽培では播種期が遅れない限り、安定栽培が可能です。  
越冬性はレンゲ、アカクローバより強く、肥沃な土壌を好みます。
- 水田転換畑裏作では乾田を選ぶこと。酸度矯正（6.0以上）。堆きゅう肥の投入。根粒菌土の施用などがポイントとなります。

## アローリーフクローバの標準的栽培方法＝暖地における単播＝

(10a 当り)

適土壤	土壌改良資材	施肥量	播種量	播種期	収穫期	主な利用法
畑地	堆きゅう肥 5t 炭カル 200kg(pH6.5)	窒素 5kg リン酸 10kg	3～4kg (根粒菌土 1袋)	暖地 9月中～下旬	4月下旬～ 5月中旬	サイレージ1回刈（青刈）
水田転換畑 (乾田)	熔リン 60～80kg	カリ 10kg		西南暖地 9月下旬～10月上旬	4月中～ 5月上旬	青刈2回刈、またはサイレージ

備考：北海道・東北北部は他のクローバ類と同じく、春播きが適す。